

経営比較分析表（令和6年度決算）

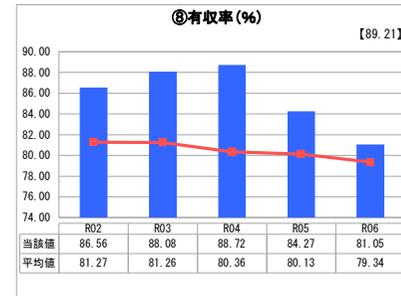
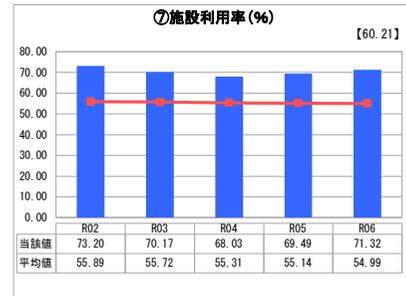
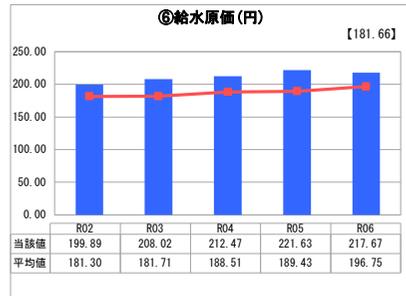
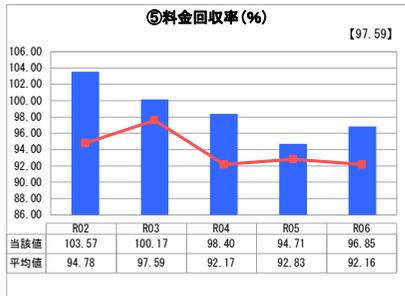
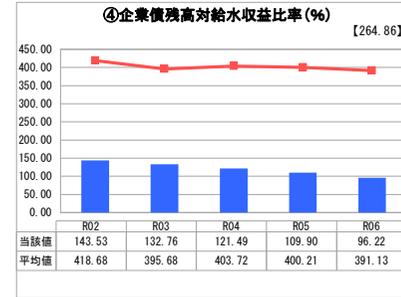
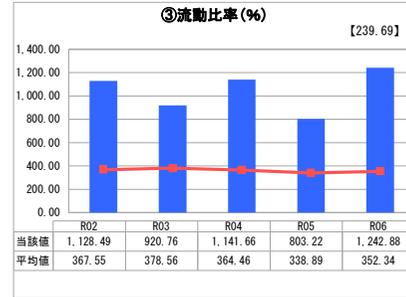
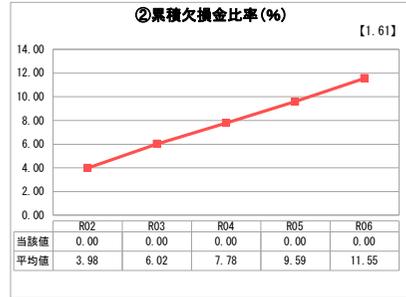
山形県 河北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.74	99.80	3,784	

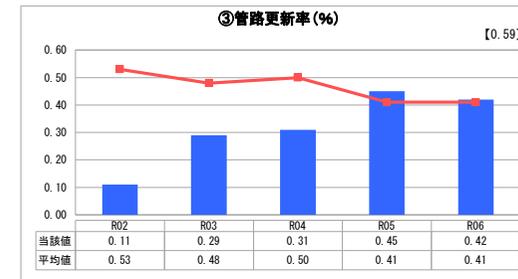
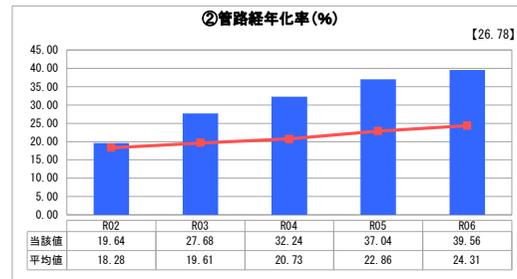
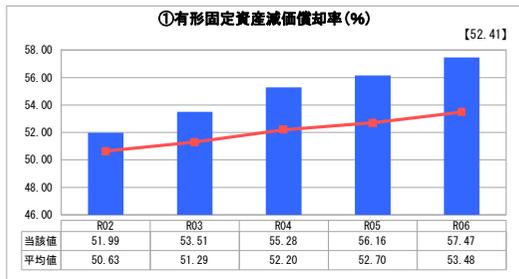
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,809	52.45	320.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,662	52.45	317.67

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は105.03%と類似団体平均を上回る水準ですが、前年度より2.01ポイント低下しました。減価償却等の抑制で費用負担は軽減したものの、修繕引当金戻入や消火栓修繕負担金、給水収益といった収益全体が大きく減少したため、前年度を下回りました。

「②累積欠損金比率」は欠損金がなく、健全な経営を維持しています。「③流動比率」は工事未払金の減少等により大きく上昇しており、短期的な支払能力に問題はありません。

「④企業債残高対給水収益比率」は、借入抑制で債務残高が年々減少しており、類似団体及び全国平均と比較し、良好な数値です。引き続き、適切な投資規模の維持に努めます。「⑤料金回収率」は、前年度より改善したものの、依然100%を下回る原価割れの状態です。人口減少に伴う有収水量の減少が供給単価を押し上げているもの、受水費など固定費を回収できていない構造的課題が続いています。加えて「⑥給水原価」は需要減少に伴い上昇傾向にありますが、有収率の向上で改善を図ります。「⑦施設利用率」は、類似団体及び全国平均よりも高く、効率的な運用ができていますが、無効水量の増加も懸念されます。「⑧有収率」は漏水箇所の特定が困難な影響もあり低下傾向です。引き続き漏水調査による早期発見・修繕を徹底し、有収率を改善することで、給水原価の抑制と料金回収率の向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
前年度から1.31ポイント上昇し、類似団体平均を上回る水準で推移しています。施設全体の法定耐用年数に対して半分以上が経過し資産全体の老朽化が着実に進展していることを示しています。

②管路経年化率
前年度から2.52ポイント上昇し、類似団体平均を大きく上回る深刻な状況にあります。法定耐用年数を超えた管路が約4割に達しており、有収率が低下し、維持管理コストが増える要因と考えられます。

③管路更新率
前年度から微減しており、類似団体平均と同水準です。しかし、現在の更新ペースでは全ての管路を更新するのに200年以上を要する計算となり、急増する「経年化管路」のスピードに更新が追いついていない状況です。

全体総括

経営面では、人口減少に伴う有収水量の減少が続いており、依然として「料金回収率」が100%を下回る原価割れの状態です。河北町水道事業経営戦略に基づき、効率的な事業運営による経営基盤の強化を推進し、企業債の着実な償還による将来の利息負担軽減と受水費を含む固定費の抑制を徹底します。また、一過性の営業外収益に依存しない安定的な収益構造を構築し、将来の更新需要を見据えた持続可能な料金水準の検討と、健全な経営体制の確立を図ります。

施設管理面では、管路経年化率が類似団体平均を大きく上回る深刻な状況です。アセットマネジメントに基づく計画的な管路更新と耐震化を最優先課題として進め、資産の長寿命化による投資の平準化を目指します。また、有収率の低下を防ぐため漏水調査の精緻化により無効水量を削減し、供給コストの抑制を図ります。